

平成21年度の本校教育がめざすこと 保護者アンケート項目に沿いながら

子どもは、毎日楽しく学校へ行っている。

子どもにとって「楽しく学校に行く」とは、まず友だちとの関係が安定していることです。つづいて、学校生活に楽しみや目標があることです。右は昨年度の「あかまつ仲良しラリー」のひとつですが、入学した1年生の歓迎をかねて、学校周辺の「春」をさがしました。友だちとの安定した関係を築き、学校生活に楽しみや目標を持つよう導きます。



子どもは、自分らしさを出し、友だちと協力している。

今年度の本校児童数は、47名となりました。学級で個性が尊重され、友だちと助け合うことを基盤に、異年齢の仲間での活動も大切にします。たとえば「あかまつ班」でなわ跳びに取り組み、仲の良いきょうだいのように助け合い励まし合い、上の子が下の子を教え導くという本校児童の良さをのびします。また、「三つのチャレンジ、一つの研究」でも個性を發揮させます。

学校は、教育方針や学校の様子を伝えている。

卒業式と修了式は、1年間の学校教育のゴールだと言えるでしょう。このゴールをめざし、今年度も週末には学年通信に次の週の学習予定をそえて各学年の様子をお知らせし、学校全体の様子はこの学校だよりやHPでお知らせします。

今年度の教育目標は「基礎基本の徹底と考える力の育成による学力の充実・向上と個性を生かす教育の推進」です。児童目標は「かしこく・やさしく・前むきに」。子どもたちには、この目標を毎日意識して、がんばってほしいです。



学校は、創意工夫のある教育活動をしている。

写真は「あかまつ生活体験学校」で4年生が奥山川の探検をしているひとこまです。1年生から6年生までの全校児童が2泊3日を共に過ごす教育活動は、全国的にも例の多いことではありません。本校は長年この取組を通して、子どもたちの成長を確かめてきました。今年も10月21日から、るり渓少年自然の家を宿舎として実施します。

「あかまつ生活体験学校」以外にも、異年齢の「あかまつ班活動」、「三つのチャレンジ、一つの研究」、「読書目標1人100冊」、「全員表彰」、「西本梅学くんのふるさと学習」など、子どもたちがふるさとに生きる自信と勇気を持つように創意工夫のある教育活動を展開します。

学校は、PTAや地域、教育後援会等と協力し、その教育力を生かしている。

中井榮樹西本梅教育後援会長様を中心に、地域の皆様・保護者の皆様には、教育後援会員として、ご支援をいただき、ありがとうございます。

子どもたちは、絵本や物語の読み聞かせ、米作り体験、酪農体験、わら細工、地層や岩石の学習など、さまざまな分野で、地域の皆様や外部から招いたゲストの先生方にお世話になっています。学年PTAも毎回有意義な取組を考えていただいております。るり渓資料館も子どもたちの学習のためにご支援・ご協力してまいります。



先生は、子どもに分かりやすく教えている。

この項目は、教育職員としての「いのち」とも言えるものです。本校では、京都教育大学の植山先生や佛教大学の達富先生（お二方とも国語教育の研究者）をお迎えして、国語科教育を中心に「分かりやすく教える」ことについて研究を重ねてきました。19年度末の保護者アンケートでは、「分かりやすく教えている」ことの肯定的評価は63%でしたが、20年度前期は92%、20年度後期は96%と、高い肯定的評価をいただくようになりました。21年度は、算数科の教育研究にも着手して、教育目標に迫ってまいります。



先生は、計算や漢字、音読など基礎的な学習を大切に指導している。

この写真は学習発表会のときのものです。人として生きるために、また、自分が追究した学習（研究）発表をするためにも、基礎的な学力は大切です。教科の学習に必要な時間を確保し、ドリルも活用し、音読をお家の方にも聞いていただくようにして、基礎的な学力がつくようにしてきました。文部科学省「全国学力学習状況調査」、京都府「基礎学力診断テスト」、南丹市実施の学力診断テストでは、基礎的な学力は全国平均・京都府平均を数ポイント上回る結果を得ました。引き続き努力します。

先生は、日常や学期末の評価を含め、子どもをよく理解している。

教職員全員が、すべての子どもを名前をおぼえることはもちろん、一人一人の良さをどのように努めています。担任であればなおさらのことで、子ども理解に努め、家庭訪問、教育相談の場でご家庭と一致協力して子どもの指導にあたるようにします。今年度は、9月の終わりに個人懇談の場を設定します。また、ほぼ毎月学校（授業）参観の機会があるようにします。ただ、2学期の諸行事がめじろおしなので、個別懇談の時期を次年度（22年度）は見直すかも分かりません。

子どもの側に立つ教職員をめざします。



先生は、子どもの人権を尊重する姿勢で指導にあたっている。

21年3月の「お別れ給食」で、子どもたちが談笑しながら給食をいただいている様子です。私たち教職員が子どもの人権を尊重する姿勢で指導にあたれば、子どもたちも互いの人権を尊重し、明るく仲良く学校生活を送ってくれるものと確信します。本校では「相手の名前を呼んであいさつをする」ということを伝統的に大切にしています。ご家庭でも、地域の方にもしっかりあいさつするよう、ご指導ください。

先生は、宿題も含め、家庭学習の習慣が付くように配慮して指導している。

「子どもに分かりやすく教える」ことを研究する中で、教室での1時間の授業の終わりを家庭学習につなぐと効果的であることが分かってきました。読書の習慣はしっかり付いてきたようです。

今年度は、宿題も含め、家庭学習の習慣がさらに付くよう「21年度版家庭学習のすすめ」をリーフレットにしてお届けすることを計画しています。

